

伊藤千尋先生からレポートへのお返事

井手公正さん、こんにちは。

先日は僕の話をお聴きいただき、ありがとうございます。

由紀先生から公正さんのレポートを送っていただきました。

最後に質問がありました。

早くお答えしたかったのですが、この間、なにかと忙しく、

なかなかお答えできずにいてごめんなさい。

① コスタリカの車椅子利用者は幸せそうに暮らしているか

コスタリカで車いすの方を見かけることはあっても、みなさんにお話しをうかがった

わけではありませんから、幸せなのかどうかは正直言ってわかりません。でも、車意志の方もそうでない方も、不幸せそうな人を見ませんでした。

いっしょに行った人が「あなたは幸せですか？」と会う人ごとに声をかけたのですが、

みなさん心から幸せそうでした。

ただ、問題点ももちろんあります。途上国のため道路整備などに向ける金あまりなく、首都の道路も段差が目立ちます。これは車いすにとっては大変だと思いました。

② 1人から15%の同志を得るためのアドバイス

2つあります。

15%を集めるためのまず一歩は、15%の15%を集めることです。

その一歩は、さらにその15%を集めることです。

つまり、いきなり15%が魔法のように得られるわけではありません。

まずは身近な一人、また一人に共感してもらうことが必要です。

とはいえ、身近な人は限られます。今やインターネットという手段があります。自分の思いを発信することです。

昨年秋に隣の韓国では大統領を批判する集会に集まった人が最初は3万人、1週間後は30万人、その1週間後は100万人と広がりました。スマホの自撮りで拡散したためです。インターネットは自分が発信し、見知らぬ人とつながりあえるメディアです。

おおいに使いましょう。

③どのような声のあげ方をすると、憲法改正などイノベーションが起こせるか

別にすぐに憲法をかえる必要はありません。憲法は今のままで法律をかえればいいのです。

声の上げ方はその人によって違いますが、いきなり声高に「日本はこうあらねばならない」などと言っても、だれも共感してくれません。

なぜ自分がそう思うのかを素直に言えばいいのです。

公正さんが質問で書いているように「誰もが抱えてしまうかもしれない人間が、社会生活において憤りや不便を感じていること」を素直に伝えることです。

僕は新聞記者の駆け出しの時代、福岡県の直方で4年取材しました。そのさいに直方の社協に頻繁に出入りしました。

車いすの方がたくさんいました。そのときに車いすの生活ってどのような不便があるのか、自分で体験しないとわからないと思って、車いすで生活して、それを新聞にレポートしたことがあります。街中の「ほんの少し」の段差が車いすには大変な壁であること、車椅子でも使えるトイレがどこにあるか、わからなければ外出できないことなど知りました。

そうしたことは、車いすに乗ったことがない人はわからないのです。それを教えてあげればいい。

その点で公正さんは先生です。

おっしゃるように、だれもが車いすの生活をする可能性があります。

そうなっても、だれもが幸せだと感じられる社会にするために、まずは何を改善すればいいのか。

公正さんだけのためではなくてみんなの問題なのですから、公正さんがみんなに代わって教えてあげればいいのです。

それはコスタリカで市民一人一人が違憲訴訟を起こして今の社会の問題点を指摘するのと同じ、崇高な行為です。

暑くなってきました。

お体にお気をつけてお過ごしください。

デンマークでもご活躍を。

伊藤千尋